

献金について

札幌北部教会 牧師 久世そらち

*献金の意味

教会での献金は、ごりやくを願うおさいせんではありませんし、たんなる教会の会費でもありません。今日までの歩みの中で神から与えられてきたゆたかな恵みにこたえ、感謝して御前にさしだすものです。教会の宣教の働きは、こうした献金によって支えられています。わたしたちは、献金を通して、自分自身を神の福音の宣教のためにささげるのです。

聖書は「十分の一の献げもの」を教えています(創世記28:22 など)。聖書の時代の人々は、収入として与えられた収穫の十分の一を、しかも余った物ではなく初穂をささげました。つまり、収入から、まず神へのささげものを先に取り分けてささげたのです。いっぽう、「各自、不承不承ではなく、強制されてでもなく、こうしようと心に決めたとおりにしなさい。喜んで与える人を神は愛してくださるからです。」(コリントⅡ9:7)とも勧められています。自分自身の信仰にもとづいて、どのように献げるべきか、祈って決断しましょう。

教会は、このように信仰の証しとして主のためにささげられる献金を、主のみわざのためにふさわしく用いるよう毎年の総会で教会の宣教の働きと予算を定めます。また逆に、そうした具体的な働きを覚えて祈り、自分の力に依りて進んで献金を献げることで、主に仕える信仰も養われるのです。

また、献金は、教会につながり教会を支える交わりのしるしです。事情で礼拝に長く出席できないときも、献金を送ることは教会につながっているこ

あか
との証しとなります。

*礼拝献金

れいはい
礼拝のときには、できるだけ始まる前に献金を用意しましょう。うけつけ ふくろ
受付で袋を受け取り、う と しゅ
主からいただいた恵みにふさわしい、せい いっぱい
の献げものを用意します。きょうかい かいけい
教会会計のために「あとひとつのコイン」も呼びかけられています。

*月定献金

きょうかい はたら
教会の働きは「すべてのことを適宜に、かつ秩序を正して行 うがよい」(コ
リントⅡ 14:40)と勧められています。しゅ たく
主から託された宣教の働きを計画的に
てきせつ おこな
適切に行 うために、まいとし きょうかい ぞうかい
毎年の教会総会で一年間の教会の働きとそのための
よさん さだ
予算が定められます。きょうかい よさん ささ
教会予算を支える裏づけとなるのが月定献金です。けいかく
計画されたきょうかい せんきょう
教会の宣教の働きをどのように支えるかを考え、それぞれにしんこう
信仰をもってけつだん
決断した額を毎月ささげます。なんかげつぶん いちど
何ヶ月分も一度にささげるのではなく、つき
ごとにきょうかい
教会のために祈ってささげましょう。

げつていけんきん ふくろ かいけい ようい
月定献金の袋は会計で用意します。ささ さい
献げる際は、袋に日付・金額をご記入
ください。れいはいけんきん とも
礼拝献金と共にささげるか、あるいはかいけい ちよくせつ わた
会計に直接お渡しください。
えんかくち ばあい きょうかい ゆうびんふりかえこうざ りよう
遠隔地などの場合、教会の郵便振替口座を利用することもできます。

*自立連帯献金

にかつて にほん
日本の教会は、おうべい きょうかい
欧米の教会からのしきんえんじょ おお
資金援助に大きく頼っていました。たよ
やがて、がいこく えんじょ
外国の援助から自立しようという願いは強くなりましたが、しえん ひつよう
支援の必要
なちい きょうかい じぶん
小さな教会を自分たちで支えようという意識はあまり強く育ちませんでした。つよ そだ
自立しようという意識はあまり強く育ちませんでした。
このようなしせい はんせい
姿勢を反省して、がいこく えんじょ
外国の援助から「自立」し、じりつ
同時にどうじ きょうかい
教会が互いに

「連帯」して支え合うために、北海教区では謝儀保障などの財政的なしくみを
整えてきました。現在、小規模教会を支える謝儀保障費等のために年間約2200
万円が用いられ、またその他教区活動一般のために約3600万円が必要とされ
ています。これらを、教区総会での決定に従い、教区内の諸教会で分担し
ています。北部教会の2020年度の教区分担金は約89万円となります。

北部教会では、こうした働きのための献金を「自立連帯献金」として献げ
ています。教区における支えあいのために、毎月の一定額を各自で決断して定
めますが、毎月ひとり平均1500円ほど献げられれば目標額が満たされます。月
定献金と同じ袋であわせてお献げください。

*特別感謝献金

日々の歩みの中で大きな恵みを与えられた時、記念すべき時などにすすんで
献金をささげます。誕生日・受洗記念・結婚記念・召天記念など、人生の節目
を覚えるのはよいことです。とくに死に際しては生涯の歩みを感謝する最後の
献げものができるよう備えておきましょう。またイースター、クリスマスのご
献金の他、夏期特別献金をよびかけています。年間の予定にお覚えください。

*会堂建築献金

2008年度に献堂した新会堂・牧師館の建築のための借入金返済をほぼ終
えることができましたが、今後の会堂のメンテナンスのため、ひきつづき会堂
献金をよびかけています。専用の献金袋を配布していますので、月ごとに一
定額を献げるほか、随時の献金にもご利用ください。口座振込を利用したい方は
会堂管理委員会にご相談ください。

*地区宣教協力献金

北海教区の各地区では、それぞれ独自の活動を持ち、また連帯のしくみを作っています。札幌地区では諸教会が支え合うために「地区宣教協力献金」を呼びかけ、これにより2019年度は4教会に85万円を献げることができました。このために北部教会では独自の袋を作成して教会員に配布し、地区の諸教会を覚えて月ごとに献げるようにしています。

*袋献金

教区のさまざまな働きや、緊急の災害援助のためなど、教会の特定の働きのために献金を募ることがあります。しばしばそのための献金袋が配られます。献金の趣旨は、袋に記されたり掲示板に張り出されたりしていますので、これらの課題のために祈り、その働きを支える献金に協力しましょう。献金は袋に入れ、礼拝献金といっしょにささげます。献金袋はそれぞれの週報棚または受付に用意されます。

*隠退教師を支える運動100円献金・謝恩日献金

日本キリスト教団の「隠退教師を支える運動」は、北海教区から始まって全国に広がった運動です。生活保障の充分でない隠退教師を支えるため毎月一口100円の献金をささげます。これも、一度にまとめて献げるよりも、たえず覚えて祈ることが求められています。

これとは別に、教団年金局からは11月の「謝恩日」にあわせ、「謝恩日献金」が呼びかけられています。教団の教師年金基金に献げられます。

以上